

三浦半島植物雑記

大谷 茂*

この報告は従前の報告（大谷1956, 1957, 1958, 1959）に続くものである。これらの前報告では羊歯植物と種子植物とを別項に取扱ってきたが、本報告よりは表題の如く一括して記述することにした。云うまでもなく本報告は三浦半島植物誌発行以来（増島、石渡、1950）三浦半島で新しく発見したもの、訂正を必要とするもの及び再確認したものを正しく記録して三浦半島の植物の正確な分類を究明するものであって、必要な標本はすべて横須賀市博物館に保管するものである。

1. コヒロハハナヤスリ、フジハナヤスリ

Ophioglossum petiolatum HOOKER

神武寺（大谷茂 June 28, 1958）。(Fig. 1, 2)

従来生育期間や形態に多少の疑問を持ちながらも、ハナヤスリ（ヒロハハナヤスリ）としてかたづけしておいたものだが、今回精密な調査によって本種たることが明らかになったもので、此の種が確認されたのは三浦半島は勿論のこと、本県下でも始めてのことである。著者は神武寺に於て、June 28, July 26, Sept. 12, Nov. 5, 1958—Aug. 31, Dec. 27, 1959 の数度の採取を試みている。*O. vulgatum* は6月末頃は枯死すれども本種は上記の通りそれ以後に於ても採取されるもので生育期だけ見ても区別可能である。図版4のヒロハハナヤスリは北下浦中沢牛込の入ノ谷に群生していた一部を採取したものであるが（June 28, 1959）6月というに全部黄葉に枯死し辛うじて標本になるものを採す程であった。本植物は孢子葉と栄養葉とが複合葉を作ることは他の同類と同じであるが、葉身と葉柄の界が多少とも明らかで有柄状を呈し、葉の網状脈は粗く、葉は長卵形で広い、又葉脚は切形又は広い楔形をしている。最も著しい点は孢子が平滑型で、輪郭は平滑だが多少極めてこまかいギザギザ程度ではあるけれども他の同類のようなコブはない。尚孢子の外皮は細かい網目模様であるので本種たることは明瞭である。

2. ケブカフモトシダ

Microlepia marginata C. CHR. var. *yakusimensis* H. ITO

神武寺（倉田悟 Nov. 3, 1959）

本種はフモトシダの極端に毛深いもので、かなりはっきりした変種とされているが、フモトシダには毛の多少の変異は漸進的に見られるので変種とするには疑問がある。

3. ミドリヒメワラビ

Lastrea viridifrons (TAGAWA) TAGAWA

神武寺（大谷茂 Oct. 15, 1958）

本種は倉田悟先生が同じく神武寺に於て再確認（Nov. 3, 1959）されている。

4. アラゲミゾシダ

Leptogramma mollissima CHING var. *pilosissima* (H. ITO) KURATA

神武寺（倉田悟 Nov. 3, 1959）

本種は正しく三浦半島は勿論のこと、神奈川県フロラの新記録ともいべきものである。

5. ナチシケシダ

Lunathyrium fimbriichlamys KURATA

神武寺（倉田悟 Nov. 3, 1959）

本種は小田原市十字に於て飯田和氏が採取（May 5, 1959）しているもので、両地区は本県に於

ける新記録ということが出来る。飯田氏の談によると湯河原、初島、熱海は殆んどが本種で、シケンダはかえって少ないということである。

6. オオサルトリイバラ、トゲナシサルトリイバラ

Smilax China L. form. *Yanagitai* (HONDA) T. KOYAMA

逗子と鎌倉の境 (小山鉄夫, 浅井康宏 May, 1958)

本種はサルトリイバラの海岸形で母種に比し、大形で葉は心臓形にならず、葉の裏面粉白を帯びその蠟質は厚い。茎は無刺であるが、トゲがあっても極めて少いものである。この種が初めて見出されたのは本記録 (1958) より前で (Oct. 1957) 靱山泰一氏と浅井康宏氏が三浦半島の *Rubus* と *Boehmeria* の調査をした時浅井氏が採集したのによる。

7. *Epipogium* 属の一品について

横須賀 (鷹取山—大谷茂 July 13, 1958)

前報告 (大谷茂 1959) に鷹取山のアキザキヤツシロランを発表したところ前川文夫先生から貴重な御意見を受けたので、更に精しく観察した結果、ここにその誤りを正し、訂正したいと思う。前川先生から「アキザキヤツシロランとして既報のものは、そうではなくてタシロランの珍品です。関東では始めてというよりも、こういう花の最盛期として採取されたことは日本で始めてでしょう。北九州の御厨屋町で昨年 (1958) 発見されたが開花期をとくにすんだものでした。写真で見ると蕾もついているし潑刺をしていますから満開直前のよいコンディションでしょう……」との指示を受けたので再び調査にかかった。

著者は距の有無を見れば明らかなるにかかわらず大きな誤りをおかしていた。即ち *Gastrodia* には距がないが本種には明らかに距があるので *Epipogium* の方に入るべきである。*Epipogium* なら、タシロラン *E. Rolfei* (HAYATA) SCHLTR. か?。根茎は洋梨状で長さ 15—17mm (アオキランよりは短い) 苞は反転しない、距の長さは唇弁とやや同長か多少短い程度、花の数は一株は 4 個、他の一株は 7 個という点から、タシロランの細長い根茎 (長さ 3—4cm)、反転する苞、唇弁より著しく短い距、8—27 個の花数の多いものとは異なり、本種を一応アオキラン *E. japonicum* MAKINO と同定するが、アオキランは北方系のように東北地方に出ているものであるし、この種はどうも南方系のように思われるので或は別の新種かとも考えられる。何れにしても三浦半島は勿論のこと神奈川県における新記録である。こういう稀品が三浦半島から出ようとは思いがけなかった。これだからフロラの上で無いということはむずかしいことである。

8. クルマバザクロソウ

Mollugo verticillata L.

横須賀 (久里浜—大谷茂 Aug. 31, 1954)

本種は川崎、横浜、平塚に報告されているものであるが、三浦半島では初めての記録である。

9. マツバゼリ

Apium Ammi URBAN

横須賀 (久里浜—大谷茂 July 9, 1959)

本種は南米原産の帰化植物で、明治 26 年長崎で池野博士が、又大正 5 年横浜で久内清孝氏が採取されているものである。久里浜の当博物館裏地には昭和 29 年 7 月、その発生が知られ、以来毎年本種を見ることが出来る。昨年長崎の西浦上に行った際本種の群落が見られた (Oct. 6, 1959)

10. オオフタバムグラ、タチフタバムグラ

Diodia teres WALTER var. *setifer* FERNALD et GRISCOM

横須賀 (北下浦海岸—大谷茂 Aug. 21, 1958)

本種は横浜、片瀬、鶴沼、辻堂、茅ヶ崎、平塚等の海浜に報告されたものであるが、三浦半島にも発生したものである。

11. ミツバベンケイソウ

Sedum verticillatum L.

三浦半島 (二子山—大谷茂 Nov. 6, 1955)

本種は津久井牧野の報告あれども本県では稀に見るもので、二子山の溪谷の岩壁に生ずる。

12. ハマサオトメカズラ

Paederia scandens MERRILL var. *maritima* (KOIDZ.) HARA

横須賀 (猿島—檜山庫三 Nov. 15, 1959)

本種は神奈川県植物誌 (1958) にハマヘクソカズラとして記録されているものであるが、三浦半島では初めての報告である。

13. ウラギク、ハマシオン

Aster Tripolium L.

英名 Sea - starwort

横須賀 (久里浜—大谷茂 Oct. 16, 1959) (Fig. 10 - 13)

本種は海岸の湿地に生える越年草で、内陸の塩性にもよく生育するものである。茎は無毛。葉は無柄で基部はやや茎を抱き、無毛で肉質である。10—11月頃繖房状に頭花をつけ、舌状花は大形、藍紫色でシオンよりもはるかに美しく野生の花とは思えない趣きがある。冠毛は花後に伸長する。そう果は扁平。

現在久里浜においては、八幡川沿岸と国電久里浜駅附近で久村より発する川添いの二ヵ所にその自生を見ることが出来る。八幡川は 1km 上流の夫婦橋附近から始まり、その上流に及んでいるが、護岸工事で漸滅しつつあるも、尚日ノ出橋までの間によく生育し北岸に22株、南岸に4株を確認し得た。日ノ出橋より上流には少ないながらも北岸に3株あることを確認した。一方久村川 (仮称) の方は兩岸に相当自生していたが埋立てのため今回の調査では左岸に2株のみ見られたにすぎなかった。

本種の自生している付近にはヨシ *Phragmites communis* TRINIUS, クマビエ *Echinochloa crus-galli* P. BEAUVOIS var. *caudata* KITAGAWA, イソホウキギ *Kochia scoparia* SCHRADER var. *littorea* MAKINO が混生している。

久里浜に本種が自生しているということは赤星直忠氏等により昭和33年11月頃からわかっていたものであるが漸滅の恐れあるため今回の調査に及んだわけである。尚本県内の産地としては多摩川の河口、川崎側の沿岸に今でもよく生育しているのを見ることが出来る。元来温帯、暖帯に分布するもので、分布も相当広いものでありながらその割に報告は少く、本県植物としても珍しい部類である。

14. イソホウキギ

Kochia scoparia SCHRADER var. *littorea* MAKINO

横須賀 (久里浜—大谷茂 Oct. 16, 1959)

本種が三浦半島植物誌 (1950) に記録してないということはどうしたことであろうか、この種はホウキギ (アカザ科) の海岸に脱出したものとされているが、むしろイソホウキギが元で、ホウキギが変種ではないかと思われる。

15. ハマアザミ、ハマゴボウ

Cirsium maritimum MAKINO

三浦 (長浜, 城ヶ島—大谷茂 Oct. 31, 1959) (Fig. 14 - 16)

本種は近年守屋淳一氏により三崎で見出されたものであるが、小山鉄夫、浅井康宏両氏からも昨年頃 (1958) から注意されていたので著者は昨年 (1959) 之が調査に当たったところ、長浜 (ナハマ) 通称和田の浜と城ヶ島にその自生を確認した。何れも相当豊富に分布している。茎は下部から分枝し、茎葉共に短毛があるが葉の下面脈上に毛が密生している。葉は強い光沢があり、砂面に

四方に拡がっている。頭花は大形で短梗があり、美しいピンク色を呈している。

本種は伊豆七島には多く、静岡以西に分布するもので三浦半島は蓋しこの種の北限地というべきであろうか。

16. シロバナタンポポ

Taraxacum albidum DAHLSTEDT

葉山（上山口、新沢—大谷茂 April 26, 1959.）、久里浜岩戸の万願寺—大谷茂 April 10, 1960, 城ヶ島—柴田敏隆 April 16, 1960, 鎌倉（浄明寺、名越—寺島浩一 April 4, 1958）.

本種は北下浦方面にあるということを知っていたが確認することが出来なかったもので今度上山口の新しい新沢、久里浜の岩戸に大群落を見ることが出来た。このみは普通の黄花のものはまじっていなかった。三浦半島では珍しい事実である。

17. クログワイ

Eleocharis Kuroguwai OHWI (= *E. tuberosa* SCHULT. var. *Kuroguwai* MAKINO)

横須賀（久里浜—大谷茂 Nov. 10, 1959）(Figs. 5-9)

本種は久里浜、吉井下、水田の用水溝に群生しているもので、すでに赤星直忠氏が昭和29年10月29日採集持参され著者は昭和29年11月13日現在を確認していたものである。関東以西に分布するので、曾て著者は鶴見川の沿岸綱島附近の水田に採取したこともある。

小穂は円柱形で茎と太さ等しい。茎には内部に隔膜があって乾くと節のように見える。地中に細長い地下茎が長くは、その先に小塊茎が出来る。葯隔は頂部線形に突出する（写真参照）ので、三角形に突出するイヌクログワイ *E. dulcis* (BURM. fil.) TRINIUS とは明らかに区別が出来る。

この種の日本における分布は、安芸、山城、備前、能登、紀伊、下総、下野、武蔵、遠江、土佐、豊前、筑前、薩摩等であるが、大体日本中部より南或は西、四国、九州である。三浦半島では横須賀附近で古く Savatier が採集しているもので、同氏がこの久里浜のものを記録したかどうか明らかではないが、今日も尚この久里浜に健在しているという事実は興味深いものがある。

18. ウバメガシ、イマメガシ

Quercus phillyraeoides A. GRAY

三浦半島植物誌（1950）には産地の記録はないが、当時三浦半島における本種は浦賀の東の叶神社の裏山のもので今でも4株の大木をまじえて十数本は見られるのである。その後、谷口森俊（1956）、榊井孝（1956）、山田友久（1958）諸氏によって本種に注意され、わけても榊井孝氏の城ヶ島に於ける本種の研究（1958）は光っている。群落構造、生育環境、生育状況、分布状態等から自生であるかないかに問題はあがあるが、年平均気温や、局部的乾燥環境の点から見ても自生として差支えないのではないかと。浦賀に於てはシイタブのため極盛相に達することが出来なかったであろう、本種は環境によって変異の多いもので、その変異の条件も一つの重要な要素となろうし、又漁民は好んで船の櫓のゴブ（いぼ—ろべそ）に本種を使用する等の事柄も、自生か移植かのきめ手の一となるやもしれない。とにかく本種の現存する三浦半島は北限地ということになるであろう。

19. フモトカグマ

Microlepia pseudo-strigosa MAKINO

三浦（三崎町諸磯二反田—大谷茂 Sept. 20, 1958）

逗子（沼間—大谷茂 Nov. 22, 1959., 石渡宏 Nov. 30, 1959）

三浦半島において本種の産地は、これで神武寺、田浦、長柄、馬堀とあわせて六ヶ所となったわけである。石渡宏氏と筆者との採集は沼間地域ではあるが別の谷である。

20. ハナイソギク

Chrysanthemum Decaisneanum MATSUM. (= *Ch. pacificum* NAKAI form. *radiatum* (MAKINO) KITAMURA

横須賀 (大楠—大谷茂 Dec. 25, 1959) (Fig. 17, 18)

本種はイソギクの白色舌状花を有するもので、栽培の小菊との間に出来た新種といわれている。葉山の長者ヶ崎にかつて生じたものの報告後、(靱山泰一、沢田武太郎 1927) また著者は一度も見ていなかったが、ついに大楠海岸に見出し得た。ここは数株ことごとく本種であって、小さな白色舌状花は特に美しく感じられた。

21. ウラジロマタタビ

Actinidia hypoleuca NAKAI

逗子 (神武寺—大谷茂 May 27, 1953)

本種はサルナシ *A. arguta* PLANCHON にまじって三浦半島には各所に見られるものである。全形サルナシにそっくりだが、サルナシは葉の裏が緑色であり、この種の方は粉白であつて脈腋に赤褐色の毛があるので容易に区別することが出来る。サルナシ一名シラクチヅルは、二子山、畠山の外、著者は神武寺 (April 26, 1953)、葉山の長柄奥地 (May 17, 1953) でも見ている。三浦半島植物誌に神武寺にマタタビ *A. polygama* MAXIM. がのっているが、著者は確認出来ない。恐らくウラジロマタタビの誤りではないかというのが今のところの見解である。

22. ソバカズラ

Polygonum Convolvulus L.

逗子 (神武寺南麓—檜山庫三 1954)

本種は欧亜大陸に生ずるもので、近年各所に帰化している。著者は横須賀にても再度この種を確認しているものである (1957, 1958)

23. ホルトソウ

Euphorbia Lathyris L.

横須賀 (不入斗—田中すき子 June 20, 1953)

本種は一名クサホルトともいわれ、昭和28年、著者並に山田友久氏も確認している歐洲原産の帰化植物である。

24. ミヤマシキミ

Skimmia japonica THUNBERG

逗子 (神武寺—大谷茂 April 26, 1953)

本種は神武寺見晴しより池子方面に向う谷に自生していたもので、附近の岩にはツルデンダ *Polystichum craspedosorum* DIELS も見られた。

25. コミカンソウ

Phyllanthus Urinaria L.

横須賀 (衣笠—大谷茂 Nov. 8, 1953)、南下浦 (剣崎—大谷茂 Sept. 13, 1953)

本種は路傍、畑地によく見かけるもので、相当広く分布している部類である。この種によく似たヒメミカンソウ *P. Matsumurae* HAYATA も各地に散見することが出来る。

26. ツリバナ

Euonymus oxphyllus MIQUEL

逗子 (神武寺—大谷茂 April 26, 1953)、二子谷、横須賀 (平作するが坂陣ヶ原入口附近—大谷茂 Sept. 24, 1959)

本種の蒴果は長梗を有し下垂し成熟すると5穀片に裂開し、内面暗赤色を呈し、朱赤色の仮種皮

ある種子を露出するので、その状和名さながらで実に美しい景観である。

27. アカバナ

Epilobium pyrriholophum FR. et SAV.

逗子（神武寺）、横須賀（野比、千駄ヶ崎—大谷茂 Oct. 12, 1953）

本種の子房は下位で、しかも狭長なるためその状あだかも花梗の如き観がある。和名の如く、秋その葉よく紅紫色にそまって美しきものである。

28. キジョラン

Marsdenia tomentosa MORR. et DECAISNE

葉山（木古庭滝不動—大谷茂 Feb. 7, 1954）、横須賀（衣笠城趾裏北斜面の沢—大谷茂 Feb. 15, 1954. 田浦—大谷茂 March 20, 1955. 猿島—檜山庫三 Nov. 15, 1959）、逗子（二子山、神武寺）

本種の花は淡黄白色の有梗小花で繖形状に集まりつくも、さしたる見ごたえはないが、緑色、楕円形の果実は、極めて大なるものである。種子には白色の種髪がある。この種は関東以西の暖地に分布しているものである。

29. アキハギク、キヨスミギク

Aster ageratoides subsp. *Sugimotoi* KITAM.

横須賀（田浦—靱山泰一 Oct. 23, 1955）

本種は愛知県以東、関東南部の日当りのよい山地によく自生するもので、イナカギク（ヤマシロギク—草木図説）ヤノコンギクに近いものである。

30. アワユキセンダングサ

Bidens pilosa L. var. *bisetosa* S. OHTANI et S. SUZUKI nom. nov.

横須賀（久里浜—大谷茂 Oct. 30, 1959）

本種の詳細は本報告書別項記事を参照されたい。

31. アイノコセンダングサ

Bidens pilosa L. var. *intermedia* S. OHTANI et S. SUZUKI var. nov.

横須賀（久里浜—大谷茂 Oct. 30, 1959）

本種の詳細は本報告書別項記事を参照されたい。

32. タイアザミ

Cirsium comosum (FR. et SAV.) MATSUM. var. *incomptum* (MAIM.) KITAMURA

本種が三浦半島植物誌（1950）に記録されていないのはどうしたことであろうか、当地区にあるものは殆んどこの種であるのに。更に疑わざるを得ないことは、同誌にヤマアザミ *C. spicatum* (MAXIM.) MATSUM. があげられていることである。ヤマアザミは四国、九州のもので、従来関東でヤマアザミと呼んだのは、大部分タイアザミである。その海岸形がイガアザミ *C. comosum* MATSUM. というものである。今一つ同誌にヒメヤマアザミというのがあるが、これはアズマヤマアザミ *C. microspicatum* NAKAI var. *microspicatum* (NAKAI) KITAM. とすべきものである。

33. ノハラアザミ

Cirsium Tanakae (FR. et SAV.) MATSUM.

逗子（沼間—大谷茂 Nov. 22, 1959）

当地区においては本種は少なく、むしろタイアザミの方が多く分布しているようである。割合に乾燥原に見られるものである。この沼間で採取したものは本種の奇形ともいべきクルマアザミである。従って異名として扱われているが、クルマアザミに与えられた学名は *Cirsium japonicum* DC. var. *obvallatum* NAKAI である（1912）。

34. ガ マ

Typha latifolia L.

横須賀（観音崎—大谷茂 Oct. 20, 1959）

本種は三浦半島では、あまり多くなく、神武寺山麓沼間のものや、城ヶ島（大谷茂 Aug. 27, 1953）のものは、コガマ *T. orientalis* PRESL である。

35. ヘラオモダカ

Alisma canaliculatum A. BRAUN et BOUCHE

逗子（大谷茂 July 22, 1953）

本種の三浦半島における分布は、まだ調査がすんでいないが、まだまだ新しい自生地が出てくるように思われる。

36. ミズオウバコ

Ottelia alismoides PERSOON

葉山（前田川上流—大谷茂 1958）

本種は前田川上流水源地附近のオオパノハチジョウシダ調査の際、山足の水田中にサンショウモの群落とともに見出したものであるが、本地区内にはまだ他にその自生の可能性は充分あると思われる。

37. ヨウラクラン

Oberomia japonica MAKINO

葉山（長柄奥地—大谷茂 May 17, 1953., 木古庭滝不動附近, 正吟、栗坪—大谷茂 Feb. 7, 1954）, 鎌倉

本種は当地区においては、主として柿、梅の木に着生している。カヤラン *Sarcochilus japonicus* MIQUEL は、曾て草間慶一氏が葉山長柄奥地で採取したというが、今のところ確認することが出来ない。しかし鎌倉には各所に自生しているので三浦地区でも出てくる可能性はある。ムヨウラン *Lecanorchis japonica* BLUME も原先生が逗子桜山で採取されたものだが、著者は今日当地区で確認出来ないものである。

引用文献

- 榎井 孝 1958. 三浦半島に分布するウバメガシ. 採集と飼育, 20 (6): 177~180, 183
 榎山 泰一 1957. アキハギク（キヨシミギク）を三浦に採る. 植物研究雑誌, 32 (1): 31
 大谷 茂 1959. アキサキヤツシロランを鷹取山で採取する. 横須賀市博物館研究報告, 4: 19~20
 谷口 森 俊 1956. ウバメガシの北限. 採集と飼育, 18 (7): 212, 215.
 Nishida, M., 1959. Studies on the Systematic Position and Constitution of Pteridophyta. No. 11 Ophioglossales, with Special Reference to Japanese Species. Bulletin of the National Science Museum, 4 (3) (No. 44): 325~335.

Résumé

Miscellaneous Notes on Plants in Miura Peninsula, Japan

Shigeru OHTANI*

(With 4 Plates)

This report succeeds to the author's former articles of which titles are "Some Notes on Spermatophyta of Miura Peninsula" and "Addenda on Ferns from Miura Peninsula". As same as the formers, this report is to supplement "Florula Miurensis" by Masujima and Ishiwata which was issued in 1950. All specimens quoted in this report are kept in the Herbarium of the Yokosuka City Museum.

The following species and varieties must be added to the Florula. (in the round brackets the accurate localities are shown)

1. *Ophioglossum petiolatum* HOOKER: Fig. 1, 2 (Jimmuji) A new member of the flora of Miura and also of Kanagawa-pref.
2. *Microlepia marginata* C. CHR. var. *yakusimensis* H. ITO (Jimmuji)
3. *Lastrea viridifrons* (TAGAWA) Tagawa (Jimmuji)
4. *Leptogramma mollissima* CHING var. *pilosissima* KURATA (Jimmuji) A new discovery not only in Miura but also in the prefecture.
5. *Lunathyrium fimbriichlamys* KURATA (Jimmuji)
6. *Smilax China* L. form. *Yanagitai* T. KOYAMA (between Zushi and Kamakura)
7. *Epipogium* sp. (Amida-dani, Takatori-yama) The plant which was reported as *Gastrodia confusa* H. NDA et TUYAMA of Takatori-yama by the author in "Science Report of the Yokosuka City Museum No. 4 pp. 19, 25 and plate II (March, 1959)" was reinvestigated more carefully than before. As the result of this scrutiny, it has become clear that the plant is of Genus *Epipogium* GMEL. not *Gastrodia* R. BR. The author is of opinion that the plant is *E. japonicum* MAKINO.
8. *Mollugo verticillata* LINNAEUS (Kurihama)
9. *Abium Ammi* URBAN (Kurihama)
10. *Diodia teres* WALTER var. *setifer* FERNALD et GRISCON (Yokosuka-Kitashitaura)
11. *Sedum verticillatum* L. (Futagoyama)
12. *Paederia scandens* MERRILL var. *maritima* (KOIDZ.) HARA (Yokosuka-Sarushima)
13. *Aster Tripolium* L. (Kurihama)
14. *Kochia scoparia* SCHRADER var. *littorea* MAKINO (Kurihama)
15. *Cirsium maritimum* MAKINO (Miura-Nahama, Jōgashima)
16. *Taraxacum albidum* DAHLSTEDT (Miura-Hayama, Kamiyamaguchi)
17. *Eleocharis Kuroguwai* OHWI = *E. tuberosa* SCHULT. var. *Kuroguwai* MAKINO (Kurihama)
18. *Quercus phillyraeoides* A. GRAY (Yokosuka-Uraga), Miura-Jōgashima)
19. *Microlepia pseudo-strigosa* MAKINO (Miura-Moroiso, Zushi-Numama)

*Yokosuka City Museum, Yokosuka.

20. *Chrysanthemum Decaisneanum* MATSUM. = *Ch. pacificum* NAKAI form. *radiatum* KITAMURA (Yokosuka-Ohgusu)
21. *Actinidia hypoleuca* NAKAI (Jimmuji)
22. *Polygonum Convolvulus* L. (Jimmuji)
23. *Euphorbia Lathyris* L. (Yokosuka-Iriyamazu)
24. *Skimia japonica* THUNBERG (Jimmuji)
25. *Phyllanthus Urinaria* L. (Yokosuka, Miura)
26. *Euonymus oxyphyllus* MIQUEL (Yokosuka, Futagodani, Jimmuji)
27. *Epilobium pyrriholophum* FRANCH. et SAV. (Yokosuka, Jimmuji)
28. *Marsdenia tomentosa* MORR. et DECAISNE (Yokosuka, Hayama, Zushi)
29. *Aster ageratoides* subsp. *sugimotoi* KITAM. (Yokosuka-Taura)
30. *Bidens pilosa* L. var. *bisetosa* S. OHTANI et S. SUZUKI (Kurihama)
31. *Bidens pilosa* L. var. *intermedia* S. OHTANI et S. SUZUKI (Kurihama)
32. *Cirsium comosum* MATSUM. var. *incomptum* KITAMURA (Yokosuka-Taura, and popular in the area)
33. *Cirsium Tanakae* MATSUM. (Zushi-Numama)
34. *Typha latifolia* L. (Yokosuka-Kannonzaki)
35. *Alisma canaliculatum* A. BRAUN et B UCHE (Zushi)
36. *Ottelia alismoides* PERSOON (Hayama-Maedagawa)
37. *Oberomia japonica* MAKINO (Hayama-Nagae, Kikoba)

(to be continued)



Fig. 1. *Ophioglossum petiolatum* HOOKER
フジハナヤスリ (コヒロハハナ
ヤスリ) 神武寺

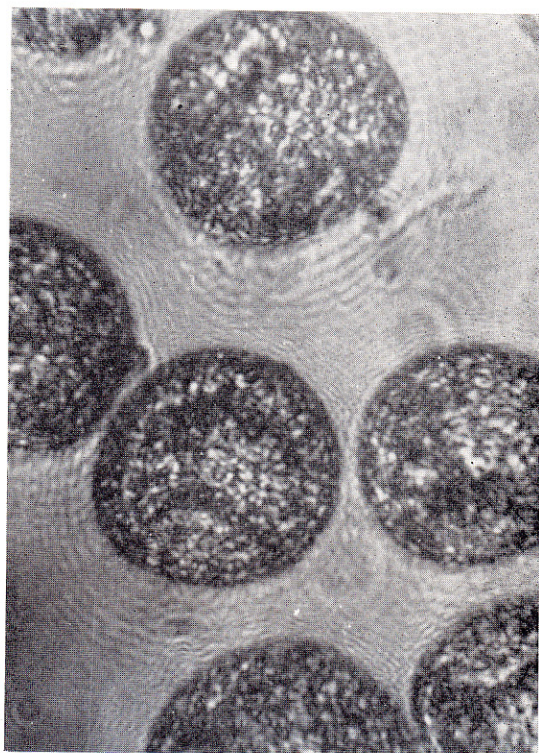


Fig. 2. *Ophioglossum petiolatum*; spores, photo.
in x400 and printed in a little reduced
size.



Fig. 3. *Ophioglossum thermale* K MAR W var.
nipponicum NISHIDA
コハナヤスリ 小田原(飯田和氏採取)

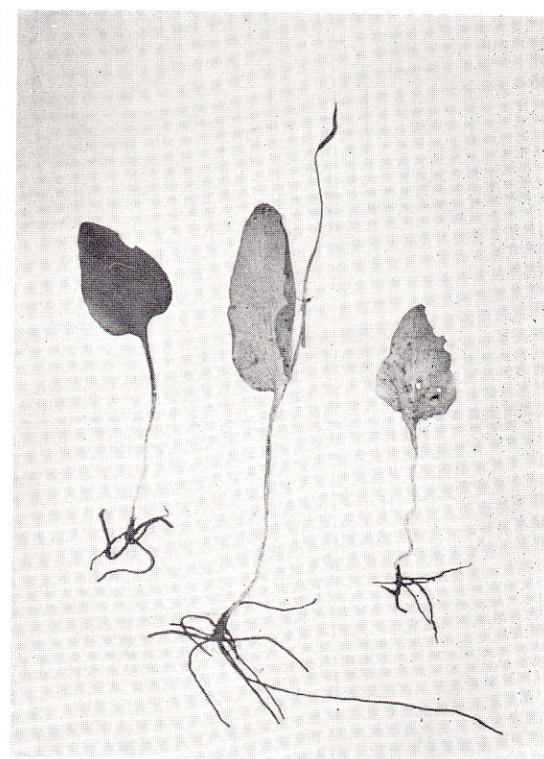


Fig. 4. *Ophioglossum vulgatum* LINNAEUS
ヒロハハナヤスリ 横須賀, 北
下浦牛込入の奥地



Fig. 9. *Eleocharis Kuroguwai*; enlarged appendixes of anther (connectivum).



Fig. 5. *Eleocharis Kuroguwai* OHWI; a small tuber at the apex of subterranean stem.
クログワイ 横須賀, 久里浜, 吉井

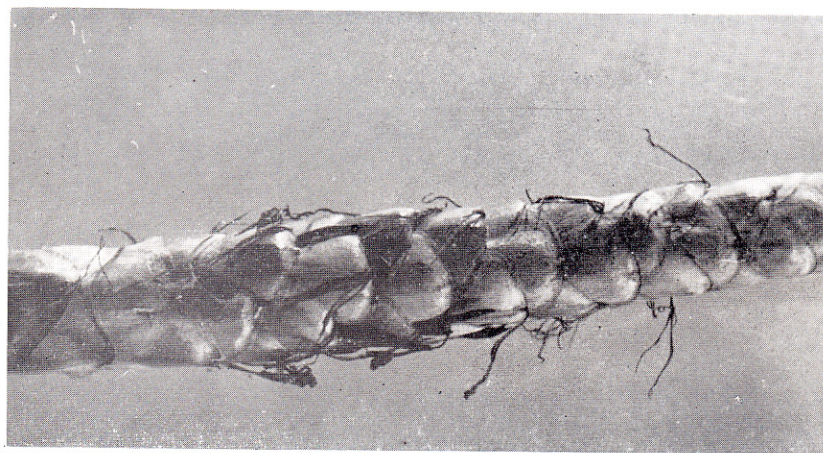


Fig. 8. *Eleocharis Kuroguwai*; enlarged spike.

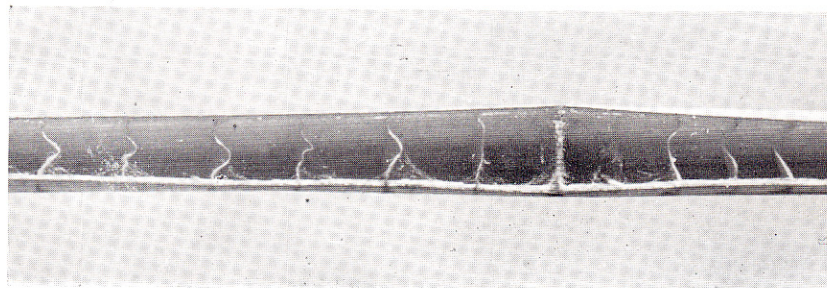


Fig. 7. *Eleocharis Kuroguwai*; septum, a vartical section of culm.

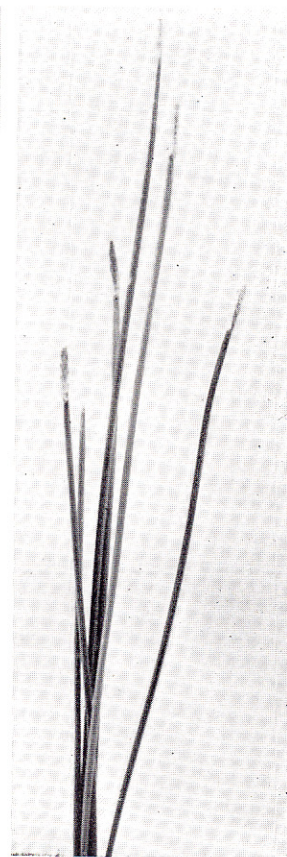


Fig. 6. *Eleocharis Kuroguwai*; upper part of culms.



Fig. 10. *Aster Tripolium* LINNAEUS
ウラギク (ハマシオン) 横須賀, 久里浜



Fig. 12. *Aster Tripolium*; scapes

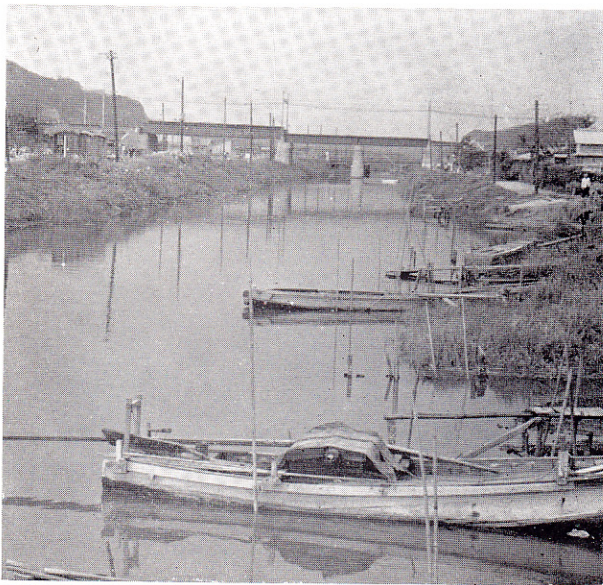


Fig. 11. *Aster Tripolium*; view of locality.
久里浜八幡川 (旧夫婦橋より写す)



Fig. 13. *Aster Tripolium*; inflorescence



Fig. 14. *Cirsium maritimum* MAKINO
ハマアザミ 初声, 長浜海岸



Fig. 15. *Cirsium maritimum*; capitulum.



Fig. 17. *Chrysanthemum Decaisnayanum* MATSUM.
ハナイソギク 横須賀, 大浦海岸

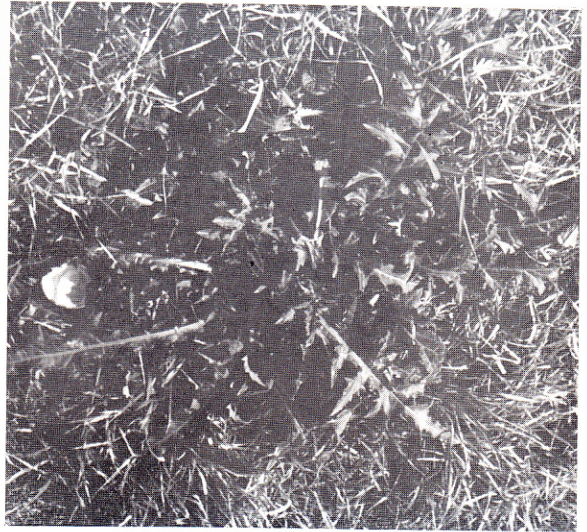


Fig. 16. *Cirsium maritimum*; rosette.



Fig. 18. *Chrysanthemum Decaisnayanum*;
capitulum from upside.